

木更津市地域自立支援協議会 令和7年度第1回全体会議 会議録

日 時 令和7年6月23日(月)14:00~15:10

場 所 木更津市民総合福祉会館 第1・第2研修室

出欠席者 委員:野中委員(会長)、大滝委員、河東委員、並木委員、清川委員、井上委員、  
内海委員、藤原委員、遠藤委員、中村委員、澤田委員(高橋相談係長代理  
出席)、小野委員、中原委員(加藤係長代理出席)、前田委員、新井委員、  
茅野委員(荒木係長代理出席)、木村委員、丸委員、大倉野委員、山本委員、  
上田委員(阿津主幹代理出席)、古山委員、寺本委員  
(欠席)鈴木(清)委員、関根委員、鈴木(均)委員、橘川委員、氷見委員、  
近藤委員、金子委員、佐々木委員、鶴岡委員  
事務局:時田課長、都築係長、神馬主任主事、山田主任主事

## 1. 開会

・傍聴人0名

・委員定数32名のうち、出席者23名(うち代理出席4名)、欠席者9名。

設置要綱第6条第2項の規定により、会議は成立。

## 2. 議題1. 令和7年度各専門部会活動計画(案)について

・各部会の報告については、資料1を参照。

・6部会共通事項として、「第6次きさらづ障がい者プラン」の進捗管理を行なうとともに「第7次きさらづ障がい者プラン」に向けた検討を行う。

### ○本件に対する質問・意見

・河東委員

居住支援部会への質問。グループホームに対して、部会員が訪問し適切な助言をするという内容なのか、また現時点で訪問先を決めているのか、これから決めるのか聞きたい。趣旨としては、関係性として薄いホームに突然訪問し評価となると難しいだろうし、相手方にとっても困るのでないかと懸念をしている。

就労・生活支援部会の企業見学については、訪問先を決めているのか、どのような業種の企業に行くのか等今年度の予定が立っていれば教えて欲しい。

→田中居住支援部会長より

日中サービス支援型グループホームの訪問・評価は、この部会で実施になる。協議会で訪問・評価するようにと千葉県から指示がある。関係性は、毎年行っている中で部会員もほとんどが同じメンバーで、徐々に築けている印象。一方で、評価をする上での緊張感が必要かと思う。見ず知らずの地域関係者が行き、新鮮な目で評価を行うという点も重視している。

→事務局 都築係長より

就労・生活支援部会の予定は7月にグループホームと就労継続支援 B 型事業所、生活介護

の見学。シェーネシュレーのグループホームと就労継続支援 B 型と地域作業所hanaのhana hacoの就労継続支援B型と生活介護に行く予定。企業は、今後決める予定であるが、昨年度は八天堂きさらづ等に見学に行っている。

・清川委員

権利擁護部会と啓発交流部会の計画書(案)に12月にイベントを行うと書いてある。予定表には同日イオンモールの行事と書かれているが、両部会で行事に関わるということか。また、11月にどちらの部会も会議がある予定だが、合同でイベントについて話し合う予定なのか。別で話し合うとなると、内容に重なりが出てしまうのではないかと思うがどうなのか。

→筒井啓発交流部会長

イベントは、同日にイオンモールで開催を予定している。部会の目的が異なること、事務局が両部会の間に入っていることから、内容が重なることはない。啓発交流部会は、市内就労支援事業所の製品の販売を通じて、より障がいのある方について普及啓発を目指すということ、障がい者スポーツやヘルプマーク・ヘルプカードのことについて展示をすることで普及啓発を目指すイベントをイオンモール内の1つの会場を使って行っている。権利擁護部会は、同じイオンモールではあるが、昨年度を例にすると別フロアで開催。本来は同じ場所で開催出来るとより効果的かと思うが、広さの問題等あり、叶わない状況。チラシの共同作成や、当日互いに来場者に宣伝し合うことはしている。

○本件に対する質問・意見

承認。活動計画(案)を活動計画とする。

### 3. 議題2 吾妻公園文化芸術施設に対する要望書の提出について(都築係長)

吾妻公園文化芸術施設の整備は、子どもから高齢者まで多世代が気軽に集い、学び、憩える、心地よい空間の創出を目指して、ホール、図書館、中央公民館を複合した文化芸術施設や、大屋根広場、交通公園、遊具エリアなども併設するよう取り組んでいる。

令和10年度の供用開始に向けて、今年度は文化芸術施設の実施設設計というスケジュール。建設に際し、障がいのある方々が、自らの意思で移動し、情報を受け取り、施設を安全に活用できる環境を整備して頂けるよう、配慮事項を要望書としてまとめた。内容は、エレベーター、トイレ、施設内外の誘導、その他の安全設備、合理的配慮に関するもので、特に災害などの非常時に、視覚や聴覚に障がいのある方が緊急事態に気づき、安全に避難できるような設備の導入について要望している。本協議会で承認がされたら、木更津市地域自立支援協議会会長より、設備整備担当の企画部地域政策室に提出する予定。

○本件に対する質問・意見

質疑なし。承認。

### 4. 議題3 第6次きさらづ障がい者プランの今後のスケジュール及び第7次きさらづ障がい者プランのアンケート調査について(山田主任主事)

今年度は、第6次プランの進捗管理を行い、次期プランに向けてのアンケート調査を実施。第6次プランの進捗管理は、主要施策は7月中旬に結果公表、障害福祉サービス等の実施状況及び成果目標及び活動目標は、7月中に取りまとめ、福祉施設から一般就労への移行等に関する調査は、令和8年1月中に取りまとめ、第2回協議会で報告予定。

今年度は、次期プランの策定に向けてアンケート調査を先行して実施する。契約した、株式会社サーベイリサーチセンターから、国の方針や現状と課題、社会的動向を踏まえた提案を入れ、本日の協議会でアンケート調査案を諮った後、7月に調査を実施予定。調査結果は、12月には情報共有及び計画の方向性を検討できるよう取りまとめる。

第7次プラン作成にかかるアンケート調査について、前は 1,000 人の手帳保有者に実施したが、今回は 2,000 人に実施する。郵送での返信に加え、電子回答も可能とした。アンケート内容については、各専門部会員にも意見を募り、見直しを行っている。

#### ○本件に対する質問・意見

・小野委員

アンケート6ページにある問21「外出するときに困ることは何ですか」の回答の5番目に「外出先の建物の設備が不便(通路・トイレ・エレベーターなど)」とあるが、その例示に駐車場を加えて欲しい。障がいのある方は車移動がメインになると思うが、施設利用の第一関門として駐車場が使いづらいということがある。

10ページ問29「あなたは次のサービスを利用していますか。今後利用したいと思いますか」の㉑「利用していない・利用したいものはない」という質問の回答に「利用している・今後利用したい」が対応していて、質問の意味が分かりにくく回答がしづらい。問29に続けて(㉑～㉒のサービスごとに)とあるので、㉑の問いは不要かと思った。

→事務局(都築係長)

駐車場については、加えることを検討する。2点目については、「利用していない・利用したいものはない」という気持ちの方の意見をどのように拾い上げるか委託業者とも一緒に検討した中で、紙面構成の関係もあり㉒まで各種サービスについての質問を、㉑に関しては利用していない又利用したいものはないということで○を付けられるように入れている。

→河東委員

案として、集計上1・2の数字が必要なのかということがあるが、必要なければ、㉑に関しては回答を「はい・いいえ」に変更したら分かりやすいのではないかと思う。

→小野委員

「はい・いいえ」だと答えられるかと思う。「利用していない・利用したいものはない」に対しての回答が「利用している」だと矛盾が生じるので気になったところであった。

その他質疑なし。承認。

#### 5. 報告1 地域生活支援拠点等整備事業の進捗状況について(山田主任主事)

本市では、障がい者の重度化、高齢化及び「親亡き後」を見据え、障がい者が住み慣れた地

域で、安心して暮らし続けられるように、地域全体で支える体制を構築すべく、令和5年2月から「地域生活支援拠点等整備事業」を実施している。機能には、「相談」、「緊急時の受入と対応」、「体験の場と機会」、「専門的人材の確保と養成」、「地域の体制づくり」の5つがある。各事業所の特徴や得意分野等を活かし、協力が可能な機能について、登録をお願いしている。登録状況は、現在登録済みが58事業所、登録率が71.6%。今後は、継続して地域生活支援拠点等の拡充に向け、未だ登録のない事業所に、再度働きかけ、新規に開設した事業所や登録の意向のない事業所にも、本事業の趣旨を理解いただくとともに、協力をお願いする。

登録済み事業所については、資料4-2を参考資料として配布している。

居住支援部会の令和7年度活動計画(案)にもあるが、地域生活支援拠点の推進、機能の充実に努めるため、君津圏域、他市の進捗状況等について、共同の研修会等を開催する。

## 6. 報告2 日中サービス支援型共同生活援助の評価結果について(神馬主任主事)

日中サービス支援型共同生活援助は、障がい者の重度化・高齢化に対応するため、平成30年度に新設されたグループホームの類型。24時間の支援体制を確保し、相談や家事等の日常生活の援助と、介護を合わせて実施、また短期入所施設を併設し、地域生活する障がい者の緊急時に、一時的な宿泊の場を提供するもの。施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続的な支援等、中核的な役割を期待され市内には10の日中サービス支援型共同生活援助のグループホームがある。

昨年度は、社会福祉法人「柊の郷」、株式会社「恵」、社会福祉法人「新祐会」の3法人に対する評価を実施。うち、株式会社「恵」が運営していたグループホームについては、令和7年3月1日付で株式会社イノベルヘルスケアが事業の継承先として、千葉県に新規指定された。それに伴い、令和7年5月14日に居住支援部会で訪問を行い、「報告・評価シート」に基づき審査、評価等を実施した。その結果を資料5にて報告する。

また、資料5の2ページ目には、グループホームに併設されている生活介護について実施した審査、評価を記載している。今後の予定としては、昨年度訪問していない、複数施設を持つ法人に対し、居住支援部会の審査及び評価等を行う予定である。

## 7. 報告3 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築推進連携会議について(神馬主任主事)

この会議は、精神障がいのある方が地域の一員として、安心して自分らしく暮らすことができるよう、保健、医療、福祉の各分野の関係者が、緊密な連携を図るための協議の場として、君津地区四市が共同で、令和3年7月に設置したもの。令和5・6年度は、本市が幹事市となり、年3回開催し、ケース検討や情報共有を図る中で、顔の見える関係性をつくり保健・医療・福祉の連携強化を図った。取組は、各市の障害者手帳の所持者の数や、障害福祉サービス利用状況等について情報共有を行い、各市が抱える困難事例に係るケース対応の検証を実施。また、入所・入院している方の地域移行の促進及び「親亡き後」を見据えた支援のあり方等につ

いて協議した。今後は、地域移行支援利用者の目標値を、君津地区四市全体の目標として掲げ、目標達成に取り組んでいく予定。目標値は、資料6の中段に記載。本年度は、君津市に幹事市を引き継ぎ、全体共通目標の達成率や取組内容について評価結果を会議で共有、また共通課題の共有を行い、今後の取組に反映させることで支援体制のさらなる強化を図る。

#### 8. 報告4 木更津オリジナル版ヘルプマークに関するアンケート結果について(都築係長)

第6次きさらづ障がい者プランの基本施策「みんなが理解し合えるまちづくり」の中で、アートとのコラボによる「木更津デザイン版ヘルプマーク」の作成に取り組むとしている。取り組みに活用するため、Web 回答形式で、令和7年2月3日から2月17日までの2週間でアンケートを実施。405件の回答を得て、結果をまとめたものが資料7である。今後は既存のヘルプマークとその活用方法を広く周知し、必要とする人に適切な配慮がされるよう努めたい。木更津デザイン版ヘルプマークについては、各専門部会員から意見を頂いたところ、「点字表記のものが欲しい」「ヘルプカードを木更津デザイン版にしてみたらどうか」等が挙げられた。必要とする人に使ってもらいたいと思ってもらえるようなヘルプマークの作成を検討したい。

#### 9. 報告5 ふくしフェスタ2025について(都築係長)

7月29日(火)に市民総合福祉会館で「ふくしフェスタ2025」が開催される。障がいのある方の就労や生活支援の現場を紹介し、実際の作業内容や製品販売、交流等を通じて支援の現状を知ることが出来る。昨年度、君津特別支援学校が発起人となり、君津市内みのわ運動公園体育館で開催し、200名程度が来場した。今年度は、本協議会啓発交流部会が主催で実施する。現在、参加表明事業所は30事業所だが、まだ増える予定。事業所での仕事の説明や、製造している食品、雑貨等の販売に加え、就労に関する個別相談、質問も受け付ける。また、市役所で行う利用手続きについても説明を行う。対象は、就労を考えている障がいをお持ちの方、就労予定の特別支援学校の生徒・保護者、公立学校の特別支援学級の生徒・保護者、福祉作業所に興味のある方。夏休み期間中なので、多くの来場者にお越し頂きたい。

##### ○本件に対する質問

###### ・河東委員

報告4のヘルプマークについて、権利擁護部会でも投げかけがあった。報告で啓発交流部会でも検討されていると分かった。デザインとしてと、機能として求めるところがあり、機能としては点字対応等足りないところがある一方で、デザインとしては否定的な意見が多いと感じている。それでも木更津市独自のデザインを作る方向で進んでいるのか、現状報告が欲しい。

###### →事務局(都築係長)

現在部会員から意見を聞いているが、まだ決まっていないところである。どちらかというところ機能面で先ほどの点字対応等の話があった。デザインについてはこのままでいいのではないかという意見が多いのは確かである。そんな中で何かいい案はないかと探しているところ。

###### ・寺本委員

先ほどご説明がありましたように、デザインを変えるよりも、機能を含めて欲しいと考えているが、ヘルプマークが実際使われているのかも調査して欲しいと考えている。

→事務局(都築係長)

実際、ヘルプマークの認知度含めて使っている人はどのくらいなのかを、今回第7次に向けたアンケートの問14に入れた。「ストラップ型ヘルプマークを使用している、ヘルプカードを使用している、使っていない、そもそもヘルプマークを知らない」という内容で調査をする予定。

・清川委員

ヘルプマークに関して、ほとんどの人が木更津版は必要ないという意見が、このアンケートを実施した結果の市民の総意かと思う。まずは受け止めてもらいたい。

報告3の会議に関して、数値目標が6年度3人・7年度3人と人数が書いてある。この人数について皆さんが何を示す人数か分かっているのか疑問だったので説明してもらいたい。

→事務局(神馬主任主事)

資料6の中段の令和7年度のところに記載してある目標値は、君津地区四市の目標値として記載している。これは各市の障がい者プランに掲げている地域移行支援の利用人数の目標値の合算になっている。内訳として令和6年度は木更津市が1名・君津市が1名・袖ヶ浦市が1名令和7年度は同数。令和8年度は全体5名のうち木更津市が2名となっている。

・清川委員

地域移行支援がそもそもどのようなサービスなのかを説明して欲しい。

→事務局(神馬主任主事)

精神科に長く入院されている方が退院して地域生活するときに、退院のイメージ・地域で暮らすイメージがつかないということがあり、入院中から相談支援専門員が関わり退院に向けてのアプローチをしていただく。例えば地域生活するための日中活動サービスやグループホームの見学、月に何度か面会をしていただいて、徐々に準備をして半年をかけて退院に結び付けるようなサービスである。

・清川委員

→ケアセンターさつきも、にも包括について関係しているので説明をする。精神科に長く入院をされている・入退院を繰り返している方は、なかなか地域生活を目指していけない。あるいは社会的入院をしている方に対して地域の受け皿を作るような取り組みを地域移行支援と言う。それが進まないのが課題として挙げられている。その取り組みに対して積極的に関わることが、にも包括という会議で、会議の中で君津圏域四市が援護している入院患者に対して地域で生活できるように整える・その活動を支援しようということを資料に示されている微々たる数字だが取組んでいるところ。

## 10. その他

・寺本委員

今年デフリンピックという聞こえない方の世界的な競技会がある。今年の11月15日から聞

こえない方たちが東京都に集まって行われる。その前に、10月26日頃と思われるが、千葉県は柏市からアクアラインを通過して木更津市にピンク色のキャラバンカーが走る予定。その引継ぎ式で木更津市にも来ると思うので、ぜひ通る時には応援して欲しい。

・事務局(都築)

次回の協議会について、来年3月を予定している。開催については通知をする予定。

## 11. 閉会